

●季節は晩秋、そして冬へ・・・

徐々に木々が色づき、公園も落ち着いたあるシックな装いになってきました。のんびり季節を楽しみましょう。

●紅葉の代表「イロハモミジ」

●紅葉といえば、やはり「イロハモミジ」ですね。公園では目洗い弁天池の周辺や、雪華園など、あちこちに点在しています。同じモミジでも日当たりなど条件によって紅葉の具合に差があるので、色味の違いも楽しめますね。



①イロハモミジ

●モミジじゃないよ「モミジバフウ」

●モミジのような葉をもつ「モミジバフウ」は、モミジとは違いご覧のような立ち姿。「フウ」という樹木の一種です。漢字で「楓」と書くため、ややこしいですが、モミジとは異なります。フウはトゲトゲの実を付けるのも特徴です。近くで見てみてください。



②モミジバフウ



③ユリノキ

●ユリノキを見上げて

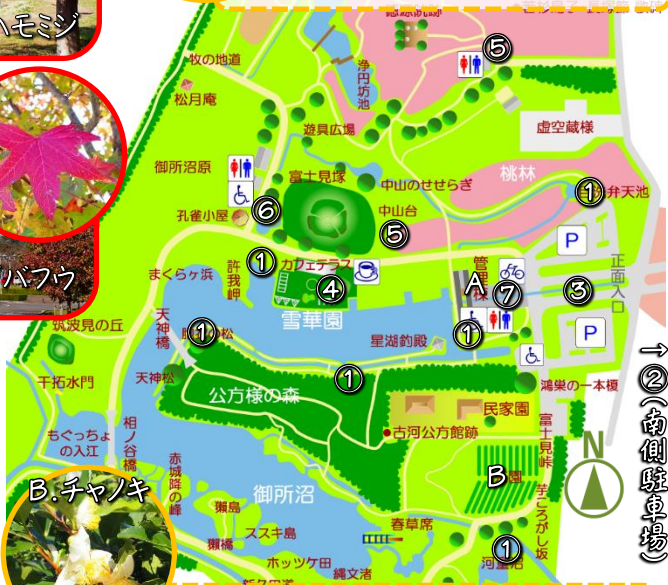
●駐車場に高くそびえ立つ「ユリノキ」。紅葉、落葉が進んでいますが、見上げてみると先のとがった実を付けています。たくさんの種子の集まりで、徐々に色づき、花の様に開いた後、周辺に散布されます。ときどき見上げて、変化を見るのも楽しいですね



A. ツツブキ

【野草紹介】管理棟脇にひっそりと咲くツツブキ。艶のあるフキのような葉が特徴の多年草です。日陰でも良く育ちます。

元屋敷の四阿



B. チャノキ

【知っていますか？お茶の花】

この時期、茶畑を覗くとツバキを一回り小さくしたような白い花が咲いています。「チャノキ（茶ノ木）」は、ツバキ科ツバキ属なので、花の形や咲く時期が似ているんですね。

●探してみよういろんな実

●秋から冬にかけては、たくさんの植物が実を付けています。赤くてキレイな「ハナミズキ」の実、下にもたくさん落ちています。「モッコク」の実、実は淡い赤色の果皮が破れて、中から赤い種が顔を出します。樹木以外にも足元に目をやると、みどりのモジャモジャ「ジャノヒゲ」の中には、鮮やかなブルーの実が付いていますよ。



⑤ハナミズキ



⑥モッコク



⑦ジャノヒゲ (リュウノヒゲ)



④こも巻き



④雪吊

●見た目も素敵な松の冬支度

●雪華園ほか、園内の松は、この時期になると「こも巻き」を行います。害虫の「マツカレハ」を駆除するために江戸時代から行われてきた伝統的な手法ですが、現在はあまり効果がないとされています。「雪吊」は、雪の重さから枝を守る手法です。金沢の兼六園が有名ですね。古河公方公園では、どちらも本来の目的より、美観目的の意味合いで実施しています。あまり近くでは見かけませんのでこの時期の風物詩として、楽しんでいただければと思います。



【昆虫の不思議・・・カマキリの卵鞘】

冬になると低木に見かけるカマキリの卵。全体をまとめて卵鞘といい、たくさんの空気を含んだ断熱材のようになっています。カマキリはその年の積雪量を予想して、卵鞘が埋もれないように、産み付ける位置（高さ）を決めているそうですから、不思議ですね。

●晩秋から冬の落ち着いた中にも、公園の自然にはいろんな発見がありますね。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索